古文単語　敬語から主語を読む　⑤

高校／敬語から省略された主語を補って訳す

名前 _____

日付 _____

敬語の種類から、書かれていない主語を補う。尊敬語は動作をする人を高める。
謙譲語は動作を受ける人を高めるので、動作をする人は受ける人より下の人になる。
表に、――線①～⑤の動作をする人（主語）を記号で書き、――線の語を訳語表の言葉で訳して書く。
問2は、主語を補って文を現代語に訳す。

訳語表　めす＝お呼びになる／お取り寄せになる／召し上がる　まゐる＝参上する／差し上げる／召し上がる
　　おほす＝おっしゃる／お命じになる　きこしめす＝お聞きになる／召し上がる／お治めになる　のたまふ＝おっしゃる

（A）場面　（国の人が語る昔話）火たき番の衛士の男が独り言を言う。それを聞いた帝の姫君が、御簾の内から男に声をかける。
人物の記号　ア　姫君（帝の娘）　イ　衛士の男

御簾を押しあげて、「あの男こち寄れ」と①召しければ、かしこまりて、勾欄のつらに②参りたりければ、「言ひつる事いま一返、我にいひて聞かせよ」と③仰せければ、……（更級日記）

（B）場面　桐壺の更衣を亡くした帝は、悲しみのあまり、食事も満足にとれなくなった。
人物の記号　ウ　帝

ものなども④聞こし召さず、朝餉のけしきばかり触れさせたまひて、……（源氏物語）

（C）場面　中納言は家来の男どもに「燕が巣を作ったら知らせよ」と言いつけた。男どもがわけをたずねる。
人物の記号　エ　中納言　　オ　男ども

「何の料にかあらん。」と申す。答へて⑤のたまふやう、「燕のもたる子安貝とらん料なり。」（竹取物語）

問1

	主語（記号）	訳語（訳語表から）
① 召し		
② 参り		
③ 仰せ		
④ 聞こし召さ		
⑤ のたまふ		

問2　（A）の文を、主語をおぎなって現代語に訳しなさい。――線の敬語は、訳語表の言葉で訳すこと。

A

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語　敬語から主語を読む　⑤【こたえ】

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

高校／敬語から省略された主語を補って訳す

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

赤い字がこたえです。訳語の活用の形（「お呼びになった」など）はちがってもかまいません。
同じ敬語でも、本文によって主語が入れかわります（「ければ」の前後に注意）。

訳語表　めす＝お呼びになる／お取り寄せになる／召し上がる　まゐる＝参上する／差し上げる／召し上がる
おほす＝おっしゃる／お命じになる　きこしめす＝お聞きになる／召し上がる／お治めになる　のたまふ＝おっしゃる

（A）場面　（国の人が語る昔話）火たき番の衛士の男が独り言を言う。それを聞いた帝の姫君が、御簾の内から男に声をかける。
人物の記号　ア　姫君（帝の娘）　イ　衛士の男

御簾を押しあげて、「あの男こち寄れ」と①召しければ、かしこまりて、勾欄のつらに②参りたりければ、「言ひつる事いま一返、我にいひて聞かせよ」と③仰せければ、……（更級日記）

（B）場面　桐壺の更衣を亡くした帝は、悲しみのあまり、食事も満足にとれなくなった。
人物の記号　ウ　帝

ものなども④聞こし召さず、朝餉のけしきばかり触れさせたまひて、……（源氏物語）

（C）場面　中納言は家来の男どもに「燕が巣を作ったら知らせよ」と言いつけた。男どもがわけをたずねる。
人物の記号　エ　中納言　　オ　男ども

「何の料にかあらん。」と申す。答へて⑤のたまふやう、「燕のもたる子安貝とらん料なり。」（竹取物語）

問1

	主語（記号）	訳語（訳語表から）
① 召し	ア	お呼びになる
② 参り	イ	参上する
③ 仰せ	ア	おっしゃる
④ 聞こし召さ	ウ	召し上がる
⑤ のたまふ	エ	おっしゃる

問2　（A）の文を、主語をおぎなって現代語に訳しなさい。――線の敬語は、訳語表の言葉で訳すこと。

A　（姫君は）御簾を押しあげて、「あの男、こちらへ寄れ」とお呼びになったので、（男は）恐縮して、欄干のそばに参上したところ、（姫君は）「言った事をもう一度、私に言って聞かせよ」とおっしゃったので、

・①は姫君が男をお呼びになる。②は男が姫君のもとへ参上する（謙譲語の動作をする人は下の人）。③は姫君。④は帝。⑤は男どもの「申す」に答える中納言。
・こたえは一例です。③は「お命じになる」も正解。次のことができていれば、ほかの訳し方でも正解です。
☐ 主語（姫君・男・帝・中納言）を正しく補えている
☐ ――線の敬語を、訳語表の言葉で訳せている
☐ 問2で、「ければ」の前後の主語の入れかわり（姫君→男→姫君）を訳し分けている